

アンケート調査結果のまとめ

項目	内容					
調査目的	本アンケート調査は、長期的な視点に立ち公共施設等の施設量や具体的な方策をまとめた「羽幌町公共施設マネジメント計画（仮称）」の策定にあたり、まちの将来を担う高校生を対象とし、公共施設等に対する意見を広く取り入れるべく、その手段の一つとして実施するものです。					
調査方法等	区分	調査対象者数	調査方法		調査期間	
	高校生	161票	各高等学校に直接依頼、配布、回収		5月18日～5月29日	
抽出方法	高校生	高校生全学年を対象				
回収状況	区分	(A) 配布数	(B) 無効調査票	(C) 有効調査票 (A)-(B)	(D) 回収数	(E) 回収率 (D)/(C)
	高校生	161	0	161	150	93.2%
項目	内容					
調査結果 (概要)	高 校 生	<p>【公共施設等への満足度について（問3）】 「ほぼ満足している」が59.3%と最も多く、「満足している」が9.3%となっており、両方を合わせると約7割近い生徒が満足していると答えています。</p> <p>【予算に制約が無い場合の公共施設等の量について（問5）】 「施設の量を増やすべき」が44.7%と最も多く、次いで「現状のままで良い」が33.3%となっています。仮に、予算に制約が無いのであれば、施設の量を増やして欲しいという意見が多くなっています。</p> <p>【公共施設等の維持管理費に対する利用者負担・税負担割合について（問6）】 「現状のままで良い」が78.0%と最も多く、次いで「税負担は仕方ないが、利用者負担を増やすべき」が16.6%となっており、利用者負担・税負担の割合についてはちょうど良いと感じています。</p> <p>【公共施設の縮小や廃止、複合化の取組に対する賛成・反対について（問8）】 「どちらかといえば賛成」、「わからない」が32.7%と最も多く、次いで「賛成」が23.2%となっており、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の両方を合わせると約6割の生徒が公共施設のマネジメントの取組に対して賛成しています。</p> <p>【公共施設マネジメントの取組による影響を容認できるかについて（問9）】 「ある程度までは容認できる」が69.3%と最も多く、次いで「容認できない」が24.7%となっており、「容認できる」と「ある程度までは容認できる」の両方を合わせると約7割の生徒が公共施設マネジメントの取組に対して容認できると答えています。</p> <p>【公共施設マネジメントの取組で重点を置くべき点について（問10）】 「利用者が少ない施設」が28.8%と最も多く、次いで「同じような用途で重複している施設」が15.3%となっており、稼働率の低い施設や用途が重複する施設の整理に重点を置くべきとしています。</p> <p>【公共施設の更新や維持に財源が不足する場合、どう対応すべきかについて（問11）】 「わからない」が44.0%と最も多く、次いで「財政状況に見合った施設量にする」が36.0%となっており、約4割近い生徒は公共施設等を縮小・廃止するなど財政状況に見合った適切な施設量にすべきとしています。</p>				
		まとめ	<p>公共施設マネジメントの総論については、約6割の生徒が「賛成」しており、施設の縮小・廃止や利用料の値上げなどの影響に対しても約7割の生徒が「ある程度までは容認できる」という考えを示しています。</p> <p>また、マネジメントの取組については、財源が不足する場合「財政状況に見合った施設量にする」べきとしており、施設量を減らすことを検討した場合「利用者が少ない施設」や「用途が重複している施設」を重点に進めるべきと答えています。</p> <p>自由記述等においては、「公共施設が利用し易くなる様な工夫」や「利用者が増えるような工夫」のほか、「高校生が気楽に集まれる施設」が求められています。</p>			